

12月定例町議会

一般質問

12月定例町議会では、4議員が身体障害者対策など8項目について一般質問を行いました。

身障者を中心とした福祉対策を強く望む

工業団地

大総工業団地は、民間企業により用地買収が進められているが、進捗状況と完成予定を伺いたい。

用地取得後の企業との交換について、町はどのように対応していくのか。また、企業が47名の旧地権者に対し、補償金として二億一千万円余を支払っているが、これをどうみているのか。

予定面積すべての買収契約を終了させている。文化財調査、造成工事等を含め、完成までには3年6ヵ月から4年かかる。売却開始は、65年6月及至12月頃になると思う。なお、文化財が出土された場合は、更に相当の期間がかかる。町が既に取得してある土地と企業が取得した土地との交換作業については、62年1月以降、県・町・企業3者の協議により

進めていく考えである。

二億一千万円は、県と町で組織する委員会において企業側が負担する旨申し込みがあり承認されたもので、企業側が旧地権者に救済補償として、町を通さずに直接支払ったものである。

ゴルフ場

工業団地と並行して進められているゴルフ場開発計画については、開発事業事前協議が11月に許可されたと聞いているが、現況と今後の見通しを伺いたい。

ゴルフ場については直接関与しないが、工業団地との複合開発ですので側面から応援する。事前協議が通れば、正式に用地買収に入れると思う。62年3月末頃には用地買収が完了する見込みだ。開発許可後の62年9月頃起工式を予定し、64年9月オープンを目標としている。

航空機騒音対策

開港以来8年半ぶりに「完全空港」実現に向けて動き出したが、昨年6月公団が示したB滑走路の騒音コンターは意外に狭く、当町には関係がない。A・B滑走路にはさまれ、ますます騒音はひどくなると思うが、その対策は。

また、某新聞にB滑走路を2500mから2800mに延長と出ていたが、実際に利用されるとB滑走路の騒音コンターも検討されるべきだと思うが。

当町は、A・B滑走路に完全にはさまれているにもかかわらず、コンターはほとんどはずされていない。粘り強い折衝を重ねた結果、B滑走路供用開始後における牛熊及び谷台地区の取り扱いについて」という文書を得た。今後は更に、要望にそって供用開始前であっても(62年度より)対処していく考えである。

B滑走路の300m延長の件について公団では、航空機の誘導路として検討中であるとして

いる。B滑走路が2800mになると長距離離れの離発着も可能となり、騒音コンター、谷間地域の見直しが必要となってくると思う。確認を急ぎ、状況を見極めながら対応していく。

農業公社

農業生産力の向上と農業経営の合理化を計るため、横芝町農業公社を設立してはどうか。

農業機械の買い換えの時期にきているが、農機具への過剰投資を防止する意味からも、町が機械を購入し、貸し出しする制度を設けてはどうか。

これからの農業は、企業的なものにせざるを得ないと思う。現在新島地区にある営農組合のようなものを育成し、やがては公社等に発展させていきたい。

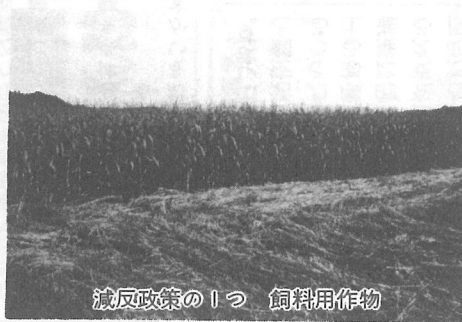
町は20年前、普及のために大型機械を購入し、貸し出しを行った。これからは無駄をなくすために企業化していく時代だ。それを行うのは、会社あるいは農協等が担当すべきだと思う。

減反政策

59年から3年連続の豊作により、第1期・第2期水田利用再編対策で未だなかつた厳しい減反政策が打ち出された。当町

の実績結果を伺いたい。未達成町村に対しては、助成金はカットなどの罰則があり、官民一体となってポスト3期対策に臨まねばならないと思うが、基本姿勢をお尋ねしたい。

第1期(53〜55年度)、第2期(56〜58年度)、第3期(59〜61年度)対策の各年度とも目標面積を達成している。当初は農協預託(管理転作)が主だったが、3期対策頃には転作としての野菜が定着しつつあり、次に青刈や多用途利用米が逐次増えている。



減反政策の1つ 飼料用作物

今まで減反政策に対しては、国・県・町村の3者で取り組んできた。ポスト第3期対策については、生産者、生産者団体が行政と一体となって取り組むべきだと思う。町としては、県の